

牧 監 第 6 3 号
令和8年8月12日

牧之原市長 杉本 基久雄 様

牧之原市監査委員 畑 義治
同 濱崎 一輝

令和7年度牧之原市水道事業会計決算の審査意見書について（提出）

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、審査に付された令和7年度牧之原市水道事業会計の決算及び附属書類について、牧之原市監査基準（令和2年牧之原市監査委員訓令第1号）に基づいて審査したので、次のとおり意見書を提出します。

令和7年度

牧之原市水道事業会計決算審査意見書

牧之原市監査委員

令和 7 年度 牧之原市水道事業会計決算審査意見

第 1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第 30 条第 2 項）

第 2 審査の対象

令和 7 年度牧之原市水道事業会計歳入歳出決算

第 3 審査の着眼点

決算その他関係諸表等の計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているか。

第 4 審査の主な実施内容

審査に当たっては、水道事業会計の決算書、財務諸表及びこれらに関する附属書類（地方公営企業法第 30 条第 9 項の書類）について、関係法令に準拠して作成され、その会計処理が適正に行われているかを関係諸表等と照合し計数の確認を行った。

また、財政状況及び予算の執行状況については、関係職員から説明を聴取し、審査の着眼点に基づき審査を実施した。

第 5 審査の実施場所及び日程

牧之原市役所 榛原庁舎 5 階庁議室

令和 8 年 7 月 21 日（火）

第 6 審査の結果

審査に付された令和 7 年度決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数及び会計処理は正確であり、令和 7 年度の財政状況及び経営成績を適正に表示しているものと認められた。

審査の意見及び決算の概要は、後述のとおりである。

第 7 審査の意見

収益的収入の大部分を占める給水収益は、主に大口契約者の使用水量の減少により、前年比 1.23%の減となった。一方、収益的支出の総額は、委託料等の減少により、前年比 2.66%の減となった。その結果、収益的収支は 24,899 千円の純損失となり、昨年度の純損失 13,726 千円に比べ、11,173 千円の増となった。

今後、サービスの提供に必要な施設等の老朽化に伴う更新投資の増大や、人口減少に伴う料金収入の減少等により経営環境は更に厳しさを増しつつある。経営の安定化に努めるとともに、管路の更新や耐震化については、優先順位を考慮しながら

計画に進められたい。併せて、様々な取組や計画等について、市民理解が深まるよう、分かりやすい広報にも努められたい。

第8 決算の概要

1 予算の執行状況

(1) 収益的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減
第1款 水道事業収益	1,003,232,000	959,085,503	△44,146,497
第1項 営業収益	959,689,000	912,408,972	△47,280,028
第2項 営業外収益	43,533,000	46,676,531	3,143,531
第3項 特別利益	10,000	0	△10,000

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額
第1款 水道事業費用	1,000,259,000	968,833,878	31,425,122
第1項 営業費用	973,905,000	945,119,432	28,785,568
第2項 営業外費用	24,354,000	23,714,446	639,554
第3項 予備費	2,000,000	0	2,000,000

収益的収支の状況(税込み)は、水道事業収益959,085千円、水道事業費用968,833千円で、税抜き後の損益は、損益計算書のとおり24,899千円の純損失となった。

水道事業収益の主なものは給水収益で、水道事業費用の主なものは原水費と減価償却費などである。

(2) 資本的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減
第 1 款 資本的収入	82,776,000	71,295,000	△11,481,000
第 1 項 企業債	73,000,000	60,000,000	△13,000,000
第 2 項 国県補助金	0	0	0
第 3 項 工事負担金	10,000	1,269,000	1,259,000
第 4 項 長期貸付金償還金	0	0	0
第 5 項 固定資産売却収入	10,000	0	△10,000
第 6 項 その他資本的収入	9,756,000	10,026,000	270,000

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額
第 1 款 資本的支出	366,083,000	317,785,840	0	48,297,160
第 1 項 建設改良費	215,233,000	167,536,421	0	47,696,579
第 2 項 企業債償還金	123,335,000	123,234,423	0	100,577
第 3 項 その他資本的支出	27,515,000	27,014,996	0	500,004

資本的収入及び支出（税込み）は、資本的収入 71,295 千円、資本的支出 317,785 千円で、資本的収支差引不足額 246,490 千円は、過年度分損益勘定留保資金 231,711 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 14,778 千円で補てんした。

資本的収入の主なものは企業債で、資本的支出の主なものは、建設改良費、企業債元金償還金である。

主な建設改良工事は、市道静波 11 号線や市道大沢 21 号線の配水管布設替工事などである。

なお、令和 7 年度末の企業債未償還残高は 2,102,353 千円で、前年度より 63,234 千円の減額となった。

2 業務量

年 度 項 目		令和 7 年度	令和 6 年度	比 較	
				増 減	比率(%)
行政区域内人口(人)		41,344	41,970	△626	98.51
給水区域内人口(人)		34,504	34,888	△384	98.90
計画給水人口(人)		44,500	44,500	0	—
現在給水人口(人)		34,469	34,853	△384	98.90
普及率(%)		99.90	99.90	0.00	100.00
給水件数(件)		16,085	16,014	71	100.44
年間総配水量(m³)		5,547,875	5,649,877	△102,002	98.19
内 訳	榛南水道(m³)	3,739,359	3,826,353	△86,994	97.73
	大井川広域水道企業団(m³)	1,808,516	1,823,524	△15,008	99.18
配水能力(m³/日)		28,500	28,500	0	—
一日最大配水量(m³)		16,113	16,047	66	100.41
一日平均配水量(m³)		15,200	15,479	△279	98.20
有収水量(m³)		4,332,386	4,394,147	△61,761	98.59
一日一人平均給水量(ℓ/人)		344	345	△1	99.69
無収水量(m³)		277,394	282,494	△5,100	98.19
有効水量(m³)		4,609,780	4,676,641	△66,861	98.57
有収率(%)		78.09	77.77	0.32	100.41
有効率(%)		83.09	82.77	0.32	100.38
施設利用率(%)		53.33	54.31	△0.98	98.20
最大稼働率(%)		56.54	56.31	0.23	100.41
負荷率(%)		94.33	96.46	△2.13	97.79
給水原価(円)		198.12	197.19	0.93	100.47
供給単価(円)		191.37	191.03	0.34	100.18

令和 7 年度の給水人口は、34,469 人、給水件数 16,085 件、普及率 99.90%である。また、給水原価は 198 円 12 銭、供給単価は 191 円 37 銭であった。

年間総配水量 5,547,875 m³、また有収水量は 4,332,386 m³となった。有収率は 78.09%、施設利用率 53.33%、最大稼働率 56.54%、負荷率 94.33%となった。

注記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として千円未満を切り捨てました。
このため差額又は合計金額が一致しない場合があります。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第３位を四捨五入し表示しました。
このため合計比率が一致しない場合があります。また、決算書等、他の書類と一致しない場合もあります。